

第6回
熊本県民なら
知っておきたい
モンタナ州の恐竜事情

Topix ①
モンタナ州とは

モンタナ州は、アメリカ北西部にあり、北はカナダと国境で接しています。「ビッグスカイカントリー」と呼ばれるように、空がどこまでも広いのです。日本とほぼ同じ面積を有し、人口は熊本県の6割弱。グレイシャー国立公園やイエローストーン国立公園などもあり、自然豊かで美しい場所です(写真1)。恐竜時代の地層が広く分布し、ジュラ紀後期から白亜紀後期の多様な恐竜化石が発掘されています。



▲イエローストーン国立公園マンモスホットスプリングのトラパーチン。初期の生命はこのような熱水環境で生まれた可能性があると言われる。イエローストーンは阿蘇と同様に過去に巨大噴火を起こしたカルデラ火山(写真1)

Topix ③
モンタナ州の恐竜研究

モンタナ州での恐竜化石調査は19世紀後半に始まりました。州外からやってきた調査隊によって、ティラノサウルスをはじめとする有名な恐竜が次々と発見され、世界的な恐竜化石産出地として知られるようになりました。

1978年、アメリカのプリンストン大学で資料技師をしていたジャック・ホーナーと、モンタナ州で高校教師をしていたポブ・マケラは、ショットという町の近くで、草食恐竜マイアサウラの子どもの骨と、卵の殻が混在している

巣の化石を発見しました(写真3)。



▲ロッキー博物館に展示されているティラノサウルスの全身骨格(実物)(写真4)

池上直樹の恐竜
そうだったのか!!



- 最近、何かと話題となっている恐竜や博物館。
- 恐竜博物館の池上博士が最近の恐竜事情についてわかりやすく解説します。
- 熊本県民なら知っておきたいモンタナ州の恐竜事情を詳しく紹介。

Topix ②
モンタナ州との交流

熊本県とモンタナ州は1982年に姉妹提携し、様々な分野での交流を進めてきました。御船町でもミズーラ子ども劇場による英語劇や、中学生の相互訪問など、四半世紀前から交流が行われていて、2012年には恐竜博物館とモンタナ州立大学付属ロッキー博物館が姉妹館となりました。2017年、町はモンタナ州立大学と連携協定を結び(写真2)、ロッキー博物館元館長のシェルダン・マッカミー氏を恐竜博物館の名誉館長に迎え、博物館運営に関する助言や広報活動への協力を得ています。

このような御船町での活動がきっかけとなって、熊本モンタナ自然科学博物館協会が設立され、熊本県内の博物館とモンタナ州の博物館との国際的な交流も活発になってきました。



▲2017年5月10日(現地)での連携協定締結。藤木町長(右)とモンタナ州立大学ワデッド・フルザード学長(左)(写真2)



◀マイアサウラの発掘現場(モンタナ州ショット)(写真3)

そして翌年、この恐竜に子育ての習性があった可能性を示す論文を、有名な科学雑誌「ネイチャー」に発表したのです。こうして世界に知られることになったマイアサウラの化石は「州の化石」に指定されることになりました。

ホーナー博士は1982年にモンタナ州立大学付属ロッキー博物館の学芸員に就任し、博物館のスタッフや学生とともに化石の収集を続けました。多数の化石標本に基づいて恐竜の成長を明らかにする研究は、ロッキー博物館がリードしてきた分野でもあります。このような研究を支える、世界で最も充実したトリケラトプスとティラノサウルスの化石コレクションは、ホーナー博士をはじめ、古生物部長のパトリック・リージー氏や首席プリパレーターのカリー・アンセル氏らの長年にわたる過酷な野外調査の成果なのです(写真4)。ロッキー博物館の活動は、地域の化石を収集し、研究し、生かしていくことの大切さを私たちに教えてくれます。



1_田代の干無田にあるファームポンド 2_ファームポンドの書類を引き渡す藤木正幸町長(左)と受け取る野田理事長(右)



ファームポンドが完成!

3月2日、熊本県から町が譲り受けたファームポンドが七滝土地改良区(野田貴久理事長)へ引き渡されました。ファームポンドは、土地改良事業の中の主要工事の一つで、取水施設から用水を一時的に溜めこみ、農地などへ送り出す施設のこと。上野地区は、以前から水不足の問題がございましたが、関係機関や土地権者との協議により、(ファームポンドの)完成に至りました。野田理事長は「十数年前からの問題が解決し、大変うれしい。最近の水が少ないので、さっそく活用していきたい」と話しました。

最後の災害公営住宅完成! -町営住宅上高野団地

3月4日、最後の災害公営住宅となる町営住宅上高野団地がくまもと技術集団・創によって完成しました。くまもと技術集団・創とは、5つの建築業者からなるもので、敷地内には13戸の瓦屋根の木造住宅が立ち並びました。高齢者世帯や子育て世帯に対応した間取りと、交流の場を確保したゆとりのある配置が特徴です。上高野団地代表の大分福一さんは「この素晴らしい空間でみんなで仲良く、楽しく過ごしたい。イベントなどを通して交流できたら」と笑顔で話しました。



最後の災害公営住宅が完成しました



ドローンを贈呈する福味会長(左から3番目)

御船ライオンズクラブがドローン贈呈

3月18日、結成50周年を記念して御船ライオンズクラブ(福味総一郎会長)は上益城消防組合消防本部(奥名克美管理者)にドローンを贈呈しました。福味会長は「通常時にドローンで危険箇所など見回り、非常時にスムーズに活用できるように」とあいさつ。贈呈されたドローンは、熱赤外線やスポットライト、スピーカーマイクなどを搭載しており、さまざまな救助活動などで使用が可能。奥名管理者は「(ドローンで)災害発生時には情報を収集し、山岳救助や水難救助などでも役立てていきたい」と話しました。

町内で卒園式・卒業式

町内の保育園、小中学校で卒園式・卒業式が行われました。



感動の卒園式、卒業式でした